

ブータン便り

vol.15

長かった雨季が終了！

一気に気温が下がり秋めいてきました。

■配属先の変革期

経営状態が芳しくない配属先ですが、現在事業内容を変更する事が検討されています。
元々は農業機械の貸し出し・販売事業のみを行っていましたが、
近年は農作物の栽培・販売・加工など他事業を幅広く展開したことで赤字が加速していました。
今後は、農作物のアグリゲーターとして自社農場や現地農家から農作物を収集・加工する事業を軸に
新しく進めていこうという打ち合わせが進められています。

■ブランド名の決定

「新事業に伴い、ブランド名を決めたい。来週までに企画書出して」と依頼があり、本社スタッフの前でプレゼンをすることに。
(こんな風に仕事を振ってくれるなんて、去年は考えられなかった！)
消費者の需要、配属先の強みを洗い出し、
単語を組み合わせたブランド名をいくつか提案しました。

■どの言語を使う？ターゲットは？

議論に上がったのは「ブランド名にどの言語を使うか」ということ。
ブータンではゾンカ（公用語）、地方言語、英語、ネパール語など様々な言葉が使用されています。
基本的に学校の授業は英語で行われるため、若者や首都圏で働く人々は英語が堪能です。

今回の新事業では、農家・半官半民の公社・販売店など
様々な業種の人々が関わることから
地域による英語の使用率の差が懸念点となりました。
英語よりもゾンカを使用した方が認知度が高いのでは？
しかしゾンカだとこの意味合いが包括できないのでは？
など、言語が多様なブータンならではの議論をし、
最終的に1つに決定しました。
今後、役員承認を通して、最終確定となるそうです。
(帰国までに確定するでしょうか)



会議中の様子

ブータンのこれが知りたい！

皆さんが気になるトピックをぜひ教えてください！👉<https://forms.gle/aibe16Qnfy8Mp9NZ8>

■Vishva karmaのお祭り



9月17日はヒンドゥー教のモノづくりの神様のお祭りでした。ブータンではチベット仏教が大半を占めていますがネパール系ブータン人や、インド人労働者もいるためヒンドゥー教も比較的身近な存在です。

モノづくりの神様なので、工場や建設会社は朝からお祈り・お祝いをしていたようです。面白いのは、ヒンドゥー教を信仰していない人も、関連企業に勤めていない人も、ほぼ全員が自家用車をデコレーションする文化です。

信仰する宗教が異なっても、身近な宗教行事と一緒に楽しむ様子は日本と似ているかも？と感じた1日でした。

■Contribution = 寄付の文化？

月の出費で意外と多いのは交際費、特にContribution = 寄付です。ブータンでは、この文化が根強いように感じます。出産・誕生日・送別会・仏教儀式・入院・訃報など、何かとContributionの依頼が届きます。重病でインドで治療を受ける人や、刑事事件による訃報の場合は、SNSを通じて情報が拡散される事もあります。

相場は大体Nu500～（日本円で850円ほど）なので毎月のお給料との比率を考えるとなかなかの出費のはずですが気持ちよく寄付するところがブータンの人の良い所。家族や友人以外に対しても、余裕がある人が助けるのが普通というのは日本にいとあまり体験しない文化だなと毎回新鮮な気持ちです。

9月は誕生日会が2回、送別会が1回、訃報が1回、そして近所のお寺への寄付が1回で計5回でした。



花里さくら

長野県佐久市出身

2022年11月から青年海外協力隊としてブータンに派遣中

同僚のRadha（上）とYangchen（左）